

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2014～2016

課題番号：26257002

研究課題名(和文)地中海世界における市民の危機対応とグローバル・ネットワーク

研究課題名(英文)A Research on Civic Attitudes to Crisis in the Mediterranean World and their Global Network.

研究代表者

大月 康弘 (OTSUKI, Yasuhiro)

一橋大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：70223873

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 27,700,000円

研究成果の概要(和文)：ギリシャで発生した金融危機とエジプトにおける民衆運動について、歴史的見地を含めて調査研究した。インフォーマントへの聞き取り調査を行い、得られた情報の整理をするとともに、政府発表の公式統計データ等との突き合わせを行い、彼らの行動規範をネットワーク論の立場から考察した。ギリシャ、エジプトの社会経済変動過程にあつて、人びとがとった行動パターンは、ローカルであるとともに国外に広がるグローバルなものであった。われわれは、彼らが近代国家の枠を超えた世界観をもち、家族や共同体の紐帯のもとに、個人的、ないし家族的、地縁的なネットワークで行動することが多いとの認識(仮説)をもつに至った。

研究成果の概要(英文)：We investigated civic attitudes and reactions to social or/and economic crisis recently occurred in Egypt and Greece. Both crisis had heavily influenced not only domestic economy but also each habitants' daily lives. We have conducted a fact-finding study by interview to informants and their friends and could collect relevant voices and episodes. Finding some typical patterns, we compared our results with official statistics data of the government. The results of our research were as follows: firstly, data collected concerning to habitants' daily lives, secondly, analysis of their attitudes toward the outer world of their local and/or domestic sphere, thirdly, careful survey on the implications of historical and contemporary investigations on civic actions, that may be called "Mediterranean".

研究分野：地中海地域研究、西洋中世史

キーワード：地中海 市民運動 アラブの春 金融危機 ヨーロッパ ギリシャ エジプト グローバル・ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

2010～12年に展開した「アラブの春」は、長年にわたってアラブ各国を支配してきた独裁政権を市民が次々に打倒し、世界史上に残る大事件となった。それは、同世界において市民が政治の主役となる新時代の到来を告げる里程標ともあった。

他方、2009年10月の政権交代を機に財政赤字が公表数字よりも大幅に膨らむことを明かしたことに始まる「ギリシャの経済危機」は、同国市民の生活を直撃したばかりか、EUまた世界各国経済に多大な影響を及ぼした。それは、21世紀の国際経済、また各国民経済に伏在する不安定性、相互関連性を象徴して注目されるとともに、今なお予断を許さぬ状況にある。

本研究は、これらの「危機」が、当事者である国民の生活にいかなる影響を与えたか、また、彼ら市民は「危機」にどう対応したのか、を調査しようとした。

2. 研究の目的

エジプト、ギリシャにおける「危機」の発生は、複雑な国際情勢の産物でもあった。この仮説に立って本研究では、「危機」の構造分析をめざしながら、現場の市民が「危機」にどう対応したか、を調査することを目的とした。

市民の「危機対応」は、エジプト、ギリシャの現場社会における伝統的な社会関係の表出でもあることが予想された。グローバリゼーションの展開とともに、各ローカル社会の人間関係や価値理念にも影響が及んだ。その歴史を検証しながら、現下の「危機」の構造を分析しようとするスタンスが、本研究の基本だった。

3. 研究の方法

(1) 聞き取り調査と図書資料分析

ギリシャ、エジプト両共和国において発生した「危機」に際し、市民らが採った対応について研究する。

アテネ（ギリシャ共和国）、カイロ（エジプト共和国）および両者の近郊、また「陸の島嶼」としてのエジプト共和国オアシス地帯をサンプルとして取り上げ、現地インフォーマントより聞き取り調査を実施した。調査を補完するために、関連文献のサーヴェイを行った。

(2) 統計

現地インフォーマントよりの聞き取り調査を補完するため、統計資料でのマクロ的状況把握も行った。これにより、各国政府等が行うデータ管理のあり方についても批判的検討を行うことを企図した。

(3) 地図を活用

インフォーマントを「主体」として措定し、サンプル地点を中心とする人的ネットワークの展開のあり方を、できるだけ地図上に可視化することを試みた。

(4) ワークショップでの討論

ラバト＝ムハンマド5世大学（2014年9月、モロッコ王国ラバト市）およびイオニア大学（2016年3月、ギリシャ共和国コルフ市）で国際ワークショップを開催した。海外の研究協力者を含む関係研究者が集い、それぞれの研究成果を報告して、方法論および成果取り纏めについて議論を深めた。

4. 研究成果

(1) 「危機」対応に関する市民の具体的な行動データを集積し、政府発表の公式統計データ等と突き合わせ、市民の行動原理をグローバル・ネットワークの観点から類型化した。また「危機」の本質を、彼らのローカルに蓄積された生活パターンとの齟齬の観点から分析した。市民の「危機」対応は、歴史的現象でもあった。このことから本研究では、歴史的な市民の危機対応に即した分析も行った。

(2) 2度の国際ワークショップを開催し、研究成果発信に努めた。各メンバーが、関係する国内外の学術雑誌に論文を公表するとともに、2冊の欧文論集 Mediterranean World 22 (2015)、23 (2017) を独自に刊行して、国際学界から好評を得た。

具体的に得られた知見（成果）は、以下の通りである。

(3) 各コミュニティで観察された市民の行動原理は、およそ「地中海的人間関係」を代表していると思われた。すなわち、現地居住の家族のほか、当該地以外の土地に住む親族および地縁者と連絡を緊密にとっている。外国への通信も頻繁である。平時には、域外転出者が（特に夏季に）本拠地に戻って滞在するケースも多い。かかるケースについては、歴史研究、つまりそれらのケースを20世紀の当該地の歴史のなかにさらに追跡することで、より立体的な歴史叙述が可能になると新たな研究の可能性も感得された。

(4) われわれのインフォーマントは、当該現地に居住し続けたケースである。その経済生活は、政治・経済事情により転変を余儀なくされた。しかし、しぶとく生活基盤を下支えする知恵と、グローバルにすら展開するネットワーク（家族的、地縁的）によって、生存が可能となっていた。生業パターンは単純ではないので、ケーススタディを継続したい。また、20世紀後半以降の各コミュニティの経済活動基盤の変化を、今後とも観察、分析していきたい。人類学者が記述する、各地域の「伝統社会」の構造を批判的に継承しながら、「近代化」に伴う「生活基盤の変化」を追跡したが、今般の「危機」への対応によって、「変化」は加速された、と思料された。他方、EU統合に伴う経済制度の変化と地域経済の変容も、今後とも追究されるべき論点と認識された。

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計 31 件)

Hiroshi Kato/ Erina Iwasaki, Alexandria in the Time of Constantine Cavafy (1863-1933), *Mediterranean World*, vol. 23, 査読無、2017、81-122

加藤博「エジプト西部砂漠のオアシス村研究をめぐる「出会い」FIELDPLUS 17号、査読無、2017、28-29

Nanako Murata Sawayanagi, “The Memory in a Crisis: A Japanese Ship Helping Out Greek Refugees on the Quay of Smyrna in 1922, *Mediterranean World* 23, 査読無、2017、135-146

村田(澤柳)奈々子「ギリシアのヨーロッパ」『学際』第3号、査読無、2017、52-64

Nobuo MISAWA, The Crisis between Greece and Japan immediately after WWI, *Mediterranean World*, No.23, 査読無、2017、123-134

Katsuyuki TAKENAKA, “Immaginari col lectiu de la ciutat de Càller a través del paisatge viscut a les cantonades”. 『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第18号、査読無、2017、123-144

Katsuyuki TAKENAKA, “Managing critical moments in urban politics: Discussion on the future Urban Planning in Reus, Catalonia”, *Mediterranean World*, 23, 査読無、2017、201-222

亀長洋子「中世ジェノヴァ人の居留地—ペラ研究と史料—」『学習院大学文学部研究年報』第63巻、査読無、2017、27-45

Yutaka Horii, Changes in the Ottoman-Venetian Treaties in the Sixteenth and Seventeenth Centuries, *Mediterranean World* 23, 査読無、2017、147-154.

Kazuaki SAWAI, A Survey of Historical Research on Natural Disasters in Early Modern Istanbul, *Mediterranean World* 23, 査読無、2017、155-161

村田(澤柳)奈々子「ギリシア経済危機と政治変動」『東洋大学文学部紀要史学科篇』第70集第42号、査読無、2017、73-105

大月康弘「中世ローマ帝国とオイコノミアの表象」『国立新美術館研究紀要』第3号、査読無、2016、146-159

加藤博「イスラム経済の基本構造」『経済研究年報』(成城大学)第29号、査読無、2016、5-44

村田(澤柳)奈々子「近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタン—ヨーロッパ的才能のひとつのかたち」『子どもと発育発達』第13巻第4号、査読無、2016、251-255

竹中克行「事業者がつくる界隈—地中海都市カンプリルスの歴史地区と港地区」『都

市地理学』Vol. 11、査読有、2016、23-43
澤井一彰「気候変動とオスマン朝「小氷期」における気候の寒冷化を中心に」水島司編 環境に挑む歴史学、査読無、2016、277-291

Hiroshi Kato/ Erina Iwasaki, Réseaux locaux en Egypte: Rôle des associations villageoises au Caire, *Mediterranean World* 22, 査読無、2015、1-16

Hiroshi Kato/ Erina Iwasaki, The “Personality” of Economic Development in the Delta region of Egypt in modern times: a Focus on Buheyra governorate.

『アジア歴史 GIS 学会ジャーナル』(JANGIS) 査読有、no.3、2015、31-37

Hiroshi Kato/ Reiji Kimura/ Erina Iwasaki, Cultivation features using meteorological and satellite data from 2001 to 2010 in Dakhla Oasis, Egypt”, *Journal of Water Resource and Protection*, 査読有、2015、209-218

村田(澤柳)奈々子「理念(idea)としてのヨーロッパ」『言語と文化』第12号(法政大学言語・文化センター)査読無、2015、243-267

⑲ Nobuo MISAWA, Shintoisme et Islam au Japon de l’entre-deux-guerres: Comment est-ce que des japonais en sont-ils venus à croire en l’Islam?, *Mediterranean World*, 22, 査読無、2015、43-64

⑳ Katsuyuki TAKENAKA, “Entrepreneurs networking in the contemporary Mediterranean: Field survey in a Catalan Coastal Town, Cambrils”, *Mediterranean World*, XXII, 2015, pp.65-77.

㉑ 竹中克行「広場に集まる—風土を読み込む人と空間の作法」『Re』185号、査読無、2015、7-12

㉒ Yoko, Kamenag-Anzai, An aspect of the Genoese Network and its Colonial world in the Middle Ages, *Mediterranean World*, vol.22, 査読無、2015、137-146、

㉓ Yutaka Horii, The Crisis and Order of Venetian Trade in Later Mamlūk Egypt, *Mediterranean World* 22, 査読無、2015、163-168.

㉔ Kazuaki SAWAI, The 1509 Great Istanbul Earthquake and Subsequent Recovery, *Mediterranean World* 22, 査読無、2015、29-42

㉕ Hiroshi Kato, Salwa Elbeih, Erina Iwasaki, Ahmed Sefelnasr, Adel Shalaby, and Elsayed Zaghoul, “The Relationship between Groundwater, Landuse, and Demography in Dakhla Oasis, Egypt”, *Journal of Asian Network for GIS-based Studies*(JANGIS), Vol. 2, 査読有、2014、3-10

㉖ 加藤博・岩崎えり奈「グローバル化とエジ

プト革命『社会学評論』258号 65巻2号、
査読有、2014、255-269

- ②9 村田(澤柳)奈々子「バルカン戦争期のヘレニズム言説」『言語と文化』第11号(法政大学言語・文化センター)査読無、2014、215-234
- ③0 村田(澤柳)奈々子「民主化後のギリシアの政治構造—ギリシア型ポピュリズムと欧州統合の理想」『人文自然研究』第8号(一橋大学 大学教育研究センター)、査読無、2014、346-373
- ③1 竹中克行「不動産バブル崩壊後のスペイン都市—地中海のコンパクトシティの復権にむけて」『歴史と地理』第673号、査読無、2014、32-42

[学会発表](計31件)

Nobuo MISAWA, “Yeni Kaynaklara gore Abdurresit Ibrahim” in Japonya'daki Hayati, IV. Uluslararası Abdurresit Ibrahim Sempozyumu, 2017年3月7、日、Ankara University (TURKEY)、招待講演

Katsuyuki TAKENAKA, “Tangible and intangible context of the city as a mediator of change: Research experience between Iberia and Japan”, Colóquio: Relações entre a Península Ibérica e o Japão: do século XVI aos dias de hoje, March 7, 2017, Universidade do Minho, Auditório do Instituto de Letras e Ciências Humanas, Braga (Portugal)

澤井一彰「東欧としてのオスマン朝と海あるいは「海」としての大河」東欧史研究会、2016年11月20日、世界史研究所(東京都・渋谷区)

Kazuaki SAWAI, The deluge of Istanbul in 1563: a flood without a big river, Cities and disasters: urban adaptability and resilience in history, 2016/11/4, Institute of Historical Research, London University, London (UK)

澤井一彰「1563年のイスタンブル大洪水再考」人間文化研究機構広領域型基幹研究人命環境アーカイブズの過去・現在・未来に関する双方向的研究対比班 近世巨大都市災害研究の現状と課題 ロンドン・イスタンブル・北京・江戸、2016年8月10日、学習院女子大学(東京都・新宿区)

Hiroshi Kato, “Global Economic History from the Egyptian Perspective” [アジア貿易・価格統計ワークショップ] Wholfahrt Toyama (富山県・富山市)、2016年5月21日

Hiroshi Kato「イスラーム文明と西洋」イスラーム協会公開講演会、東京大学(東京都・文京区)、2016年6月19日

Hiroshi Kato, Global economic history in 19th century from the Egyptian

perspective. 第5回 ANGIS 国際会議 “State of the Art in Historical GIS in Asia”, フィリピン大学・ディリマン校, マニラ、フィリピン、2016年12月1日

Hiroshi Kato, “Egyptian Society Seen through the Eyes of a Japanese Researcher”, JSPS (日本学術振興会) The 30th Anniversary of JSPS Research Station, Keynote Speech, January 16, 2016, Conference Center, Cairo University, Cairo (Egypt) 招待講演

Hiroshi Kato, Erina Iwasaki, “Alexandria in the Time of Constantine Cavafy (1863-1933)”, 一橋大学地中海研究会国際ワークショップ、2016年3月28日、Ionian University, Corfu (Greece)

Yoko Kamenag-Anzai, The action and the Atmosphere of the Residents in Pera in the Crisis just after the Fall of Constantinople (1453). 一橋大学地中海研究会国際ワークショップ、2016年3月28日、Ionian University, Corfu (Greece)

Yutaka Horii, “Administrative Aspects of Ottoman-Venetian Connection in the Sixteenth Century,” 一橋大学地中海研究会国際ワークショップ、2016年3月28日、Ionian University, Corfu (Greece)

Kazuaki SAWAI, Unending Dialogue between the Present and the Past: A Natural Disasters in Early Modern Istanbul, 一橋大学地中海研究会国際ワークショップ、2016年3月28日、Ionian University, Corfu (Greece)

Hiroshi Kato, “Introduction. Background of the Research, Overview of Research Field, and Research Objectives”, Organized Session “Study of 'Sustainable' Development in the Water-Scarce Society - Case of a Village in the Western Desert (Egypt)”, International Symposium on Agricultural Meteorology (ISAM 2016), 2016年3月15日、岡山大学(岡山県・岡山市)

澤井一彰「近世イスタンブルにおける自然災害と研究の現状 (A Survey of Historical Research on Natural Disasters in Early Modern Istanbul)」人間文化研究機構広領域型基幹研究「人命環境アーカイブズの過去・現在・未来に関する双方向的研究対比班、プレ国際シンポジウム近世巨大都市災害研究の現状と課題 ロンドン・イスタンブル・北京・江戸、2016年2月19日、国文学研究資料館(東京都・立川市)

Hiroshi Kato, “Reconsideration on Cairo and Alexandria in the Modern History Egypt”, Meeting of the Project at JaCMES “Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 2”, 2016年2月

17日、AA研(東京都・府中市)
加藤博「エジプト社会経済史研究における
空間分析の可能性と限界」第113回史学会
大会報告公開シンポジウム、東京大学(東
京都・文京区) 2015年11月14日
Hiroshi Kato, "Personality" of Economic
Development in the Delta Region of
Egypt in Modern Times. Focus on
Buheyra Governorate, 17th World
Economic History Congress, 4 August
2015, Kyoto International conference
Center, Japan

Nobuo MISAWA, Ertugrul
murettebatının Japonya'daki
hareketleri, Uluslararası Ertugrul'un
Izinde Deniz Kuvvetleri ve Diplomasi
Sempozyumu, 2015年9月16日、Istanbul
(TURKEY) 招待講演

Nobuo MISAWA, Japonya'daki
Abdurrehid Ibrahim'in Izleri: Yeni
bulunmus olan Kaynaklar, III.
Uluslararası Abdurrehid Ibrahim
Sempozyumu: Gecmisten Gunumze
Rusya Muslumanlari ve Matbuat
Hareketleri, 2015年6月27日、Kazan
(RUSSIA) 招待講演

- ②① Katsuyuki TAKENAKA, "Santiago de
Compostela as a City of Flows: From the
field research of the Laboratory
Takenaka of Geography, Aichi
Prefectural University: 2012-2014", Ciclo
de Conferencias Vía Láctea, March 6,
2015, Universidade de Santiago de
Compostela, Facultade de Humanidades,
Salón de Graos, Lugo (Spain)
- ②② 澤井一彰「オスマン帝国における発酵食品
とハラール認識」イスラーム地域研究セミ
ナー 飲食から考える地域社会と多文化環
境: ハラール・コシエル, 2015年3月4日、
金沢大学(石川県・金沢市)
- ②③ Hiroshi Kato, "Personality" of Socio-
economic Development in modern Egypt",
The 3rd ANGIS (Asian Network for
GIS-based Studies) Meeting, 2015年1月
5日、バンコク(タイ)
- ②④ Hiroshi Kato, "Local Network in Egypt",
2nd Meeting of the Project at JaCMES
"Human Mobility and Multi-ethnic
Coexistence in Middle Eastern Urban
Societies", 2014年9月15日, JaCMES,
ベイルート(レバノン)
- ②⑤ Hiroshi Kato, "Local Network in Egypt
Viewed from Urban-rural Migration", 一
橋大学地中海研究会国際ワークショップ,
2014年9月4日, ムハンマド5世大学社
会経済研究所, Rabat (MOROCCO)
- ②⑥ Nobuo MISAWA, The Japanese
Emergence in the Mediterranean Sea in
1921: How did the network of the Allied
Powers react to the crisis, Workshop

"Crises and Networks in the
Mediterranean World", 2014年9月4日、
Rabat (MOROCCO)

- ②⑦ Katsuyuki TAKENAKA, "Entrepreneurs
Networking in Crisis: A Case Study from
a Catalan Coastal Town, Cambrils",
workshop co-organized by the
Mediterranean Studies Group
(Hitotsubashi University) and l'Institut
Universitaire de la Recherche
Scientifique (Université Mohammed V):
Crises and Networks in the
Mediterranean World, September 5,
2014, Rabat (MOROCCO).
- ②⑧ Yutaka Horii, "Egyptian Society and
Foreigners in the Early Sixteenth
Century: A Case of Venetians in Late
Mamlük Alexandria," 一橋大学地中海研
究会国際ワークショップ, 2014年9月4
日, Institut Universitaire de la
Recherche Scientifique, Université
Mohammed V, Rabat (MOROCCO).
- ②⑨ Kazuaki SAWAI, The Great Istanbul
Earthquake of 1509 and Subsequent
Recovery, 一橋大学地中海研究会国際ワ
ークショップ, Workshop Crises and
Networks in the Mediterranean World,
2014年9月4-5日, ムハンマド5世大学
社会経済研究所, Rabat (MOROCCO)
- ③⑩ Nobuo MISAWA, Tatar Exiles and
Japan: How the Japanese Activists of
Pan-Asianism found them?, WOCMES
2014, 2014年8月20日, Ankara
(TURKEY)
- ③⑪ Yutaka Horii, The Venetian Consul and
Trade in Late Mamlük Egypt," First
Conference of the School of Mamlük
Studies, Panel 1: "Venice and Mamlük
Egypt," 2014年6月24日, Auditorium
Santa Margherita (Venice, Italy).

〔図書〕(計12件)

加藤博、岩崎えり奈、北澤義之、臼杵悠、
吉年誠『カフル・マー村研究 - 北西部ヨル
ダン山村の社会構造とその変容』SIAS ワ
ーキングペーパー、査読無、2017年、157
頁

Nobuo MISAWA, *Bulletin (Kobe
Idil-Ural Turk-Tatar Cemaati)*, ACRI
TOYO University, 2017, 97頁

Hiroshi Kato/ Erina Iwasaki, *Rashda.
The Birth and Growth of an Egyptian
Oasis Village*. BRILL, August 2016,
pp.294+26.

加藤博「ナイルをめぐる神話と歴史」水島
司編『環境に挑む歴史学』勉誠出版、2016
年、416頁(292-307)

加藤博「アレクサンドリア - 文明の交差す
る地中海近代都市」羽田正責任編集『地域

史と世界史』MINERVA 世界史叢書 1、ミネルヴァ書房、2016、338 頁 (291-315)
橋場弦・村田奈々子編『学問としてのオリンピック』山川出版社、2016、260 頁
竹中克行(編著)『空間コードから共創する中川運河—「らしさ」のある都市づくり』鹿島出版会、2016、224 頁
水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア経済史研究入門』第 部、名古屋大学出版会、2015、377 頁
竹中克行(編著)『グローバル化と文化の境界—多様性をマネジメントするヨーロッパの挑戦』昭和堂、2015、250 頁
竹中克行(編)『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房、2015、307 頁
澤井一彰『オスマン朝の食糧危機と穀物供給 16 世紀後半の東地中海世界』山川出版社、2015 年、303 頁
加藤博『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014、182 頁

〔その他〕ホームページ等

<http://wakame.econ.hit-u.ac.jp/~areastd/mediterranean/index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大月 康弘 (OTSUKI Yasuhiro)
一橋大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：7 0 2 2 3 8 7 3

(2) 研究分担者

加藤 博 (KATO Hiroshi)
一橋大学・名誉教授
研究者番号：1 0 1 3 4 6 3 6

澤柳(村田)奈々子
(SAWAYANAGI-MURATA Nanako)
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：6 0 6 4 7 4 3 6

三沢 伸生 (MISAWA Nobuo)
東洋大学・社会学部・教授
研究者番号：8 0 3 2 8 6 4 0

亀長 洋子 (KAMENAGA Yoko)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：4 0 3 1 7 6 5 7

竹中 克行 (TAKENAKA Katsuyuki)
愛知県立大学・外国語学部・教授
研究者番号：9 0 3 0 5 5 0 8

堀井 優 (HORII Yutaka)
同志社大学・文学部・准教授
研究者番号：7 0 3 9 9 1 6 1

(3) 連携研究者

岩崎 えり奈 (IWASAKI Erina)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：2 0 4 3 6 7 4 4

(4) 研究協力者

飯田 巴貴 (IIDA Miki)
専修大学・商学部・准教授
研究者番号：0 0 5 5 3 6 8 7